



平成28年10月30日、高知県が行っていた国道439号落合拡幅工区最後の未整備区間700mの工事が終わり、着工27年の歳月を費やし約3kmの道路改良工事が完成しました。開通により所要時間の短縮に伴う医療機関へのアクセスの改善など、地域の利便性と安全、安心が確保されました。

合併60周年から 70周年へ 国道439号 「落合拡幅工区」完成



町道馬瀬古屋線



高知自動車道立川橋

豪雨により、大規模な山腹崩壊が多数発生したことに伴い大量の土砂が流出し、高知自動車道の立川橋の崩落や、道路の崩壊、世帯の孤立など、甚大な被害が発生しました。

平成30年7月豪雨



平成30年から、情報通信化に対応するため、国の情報通信基盤整備推進事業により、大豊町で光ファイバーによる地域情報通信網が整備されました。これによりインターネットがより早く快適に利用できるようになりました。また、各家庭にタブレットを貸与し、町内放送が聞ける「大豊町ゆとりすと放送」サービスも展開し、過疎化地域における情報化に貢献しています。

光ファイバー通信網整備



老朽化や南海トラフ大地震などで被害を受けるとの耐震診断の結果を受け、令和元年1月4日に高須から津家の旧特別養護老人ホーム大豊園跡地へ仮庁舎として移転しました。

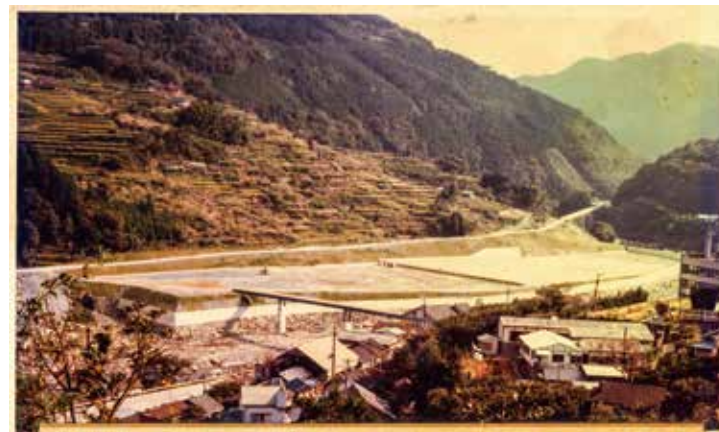
役場庁舎移転

昭和51年 農工センター完成



昭和51年11月に完成した農工センターは、1階に農事放送農業協同組合や森林組合、商工会の事務所が入り、2階は会議室や資料図書室などが造られました。現在の3階部分（文化ホール）は、合併25周年記念事業の一環として、昭和55年に新たに増築されました。

昭和52年 大杉農村広場敷地完成



大杉中学校と大杉農村広場の用地造成工事は、昭和51年1月13日に着工し、翌年10月28日に完成しました。中州の一部を切りとって国道側の川幅を広げて護岸し、反対側を埋め立て中州と中村大王側を結び造成しました。

88れいほく高速博開催

昭和62年10月8日に開通を迎えた高知自動車道を記念し、翌63年に大豊インター近くのプラチナ広場にて開催され、20万人を超える来場者が訪れました。



福寿草まつり

「福寿草まつり」は、南大王で平成元年から始まり、幸せを招く花として、その愛らしい姿を見ようと、平成10年代には6,000人を超える観光客が県内外から多く集まり、冬の里山が賑わいました。

新駅舎 「とまレール大杉」完成



JR土讃線大杉駅は昭和7年12月に開業していましたが、平成16年1月に火災により焼失してしまいました。

そこで、大杉中学校の生徒たちの駅舎デザインなどの協力のもと、「とまレール大杉」として平成17年3月に新しい駅舎が再建されました。

この駅舎は「第4回高知県木の文化賞」を受賞しました。

